

ウータン

《HUTAN》森の通信

NO.15

1990 6.18

発行 ウータン・森と生活を考える会

郵便振替 大阪3-3880

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

年会費 2000円

「自然を返せ！関西市民連合」事務所気付

06-372-1561

壊すな！ 森のいのちを

サラワク



100 円

誰が!!

サラワククの森を滅ぼすのだ。

ブルーノ・マンサー

私のなまえは、ブルーノ・マンサー

と言います。今日の集会のために準備して下さったビラに書いてあるように、私は六年間ポルネオのマレーシア領サラワクで、ブナン族の人々と一緒に暮らしてきました。

ブナン族がいま直面しているたいへんな危機を、一口で言いますと、商業的伐採と呼ばれる行為が、どれだけ先住民たちを苦しめ破壊に追いやっていくかという事なのです。

熱帯林の伐採は、巨大な樹木だけを切るだけではありません。そのためには周囲の小さな植物も根こそぎ犠牲になつてしまうのです。

先程も弁護士の大西先生が話された

ように、マレーシアの法律は、たいへんレトリックにつくられていまして、このように先住民を、脅かす無法な伐採を、取り締まるどころではないのです。

現状は、たいへん悲しい様相になつてしまいました。これまでに千名以上のブナンの人たちが、プロケード（道路封鎖）に参加して、搬出の阻止を試みました。人々の抵抗の理由は、たった一つの理由だけなのです。

彼等は日常生活のすべてを、森に頼っています。食物はもちろん、薬草やその他に生活必需品のすべてが、森林



で賄われるからなのです。伐採がひどくなるにつれて、獲物は追い散らされてしまい、川は汚れて行く。これは伐採のために、多くの人が森に入ってくるので、被害は加速度を早めてゆけばかりです。

サラワクの森の破壊を見てみると、自然は誰のものなのかと叫びたくなる。この原生林の中で、ブナン族は遠い昔から住んでいたからこそ、「ここは自分たちの土地だ」と主張するのですが、州政府はサラワクの森に、とつぜん現われて、「権利は州政府にある、我々の

指示にしたがえ」と言うのですから、双方は対立せざるを得ないので。

州政府の手順で伐採の許可が出るのですが、サラワク森林省のネースターは、伐採現場や先住民に会うために、姿を見せたことは無いのです。現場の視察や、先住民の意見は聞かないで、地図だけの確認で事は運ばれるのです。

伐採許可が先住民のためでは無い証に、利権は政治家を中心とした縁戚にばらまかれます。この人たちが、伐採の地域とは何のゆかりも無い者ばかりで、先住民たちへの配慮など、ぜんぜん顧みられないのです。プナン族の言葉も知らない人間に、彼等への理解を示せというのは、無理な話だとは思いますが、実際には伐採にかかわる連中は、マレーシアに数多く住む華僑が多いのです。この中国人たちに州政府は、森林伐採のすべてを委託します。何の犠牲も払わずに恩恵を受け、た華僑たちは、それ以後は政治家に賄

賂をばら撒いておけば、何でもことが運ぶという仕組みになっています。

彼等はプナン族のように森林に住んでいませんから、自然破壊もどこ吹く風で、厚かましくも、伐採許可を州政府から貰っただけで、お金が転がりこんで来るのです。サラワクの地に居て、何らかのかたちで、森林伐採の恩恵を受ける人は、人口の三〇%にも満たないのですが、サラワク州だけで、一日当り三〇〇ドルに相当する作業が強行されていますから、政治家の懐に入るのも、華僑たちをうるおす分も、どれくらい金額になるのか測り知れません。

もし先住民の主張が認められて、伐採が中止されると仮定しますと、その類いの金が動かなくなり、旨みのある収入を捨てられない人間たちのために、伐採中止は困難だという馬鹿げた背景があるのです。

プナン族の事に話を戻しましょう。

土地は誰のものであるのかは、始めに話しましたが、伐採がひんぱんになってくるにつれて、素朴なプナンの人たちは、想像もできないような遠い昔のことを、真剣に考えるようになりました。部族の先祖たちは、住んでいた熱帯林をたいせつにして、自然を潰さなかったから、いままで食物はもちろん、薬草も取れ、生活のすべては森が恩恵を与えてくれた。プナン族の生活の文化は自然が賄ってくれた。その我等の土地を、州政府がサラワクの森林の所有は法律によって政府のものと決められてある、と言うのでは辻つまが合わないのです。伐採の直前になって、ヘリコプターを飛ばして写真を取り、航空地図を作る。森は政府のものだと言いつつ、奇妙なことに出来上がった地図を手にした役人たちが、プナン族のところによってきて、この川の名前をどう呼ぶのだ、この山は何と言うのだと迅ねまわる。不思議な話です。

彼等が主張するように自分たちが所有する土地であるなら、山や川の名前ぐらひは、知っているのがあたりまえなのに、これは明らかに、法律という名の無法だ思います。

伐採され続けているサラワクの森に、プナン族が長い生活の歴史を持っていることは、森林伐採直前に起こる、この殺人の醜態ぶりを見てもあきらみません。

さらにプナンの人たちは考えます。俺たちは、この森の奥深くに、たくさん墓地を持っている。政府の殺人たちの、先祖の墓は森の何処にも見当たらないではないか。彼等は口を揃えて、殺人たちの土地だという証は、森じゅう探しても何処にも無い、と。

無法な伐採を、穏やかなプナン人たちは、話し合いで止めさせようと、現場に行きました。

伐採現場へ行つたときは、「州政府から許可を取って仕事をしているのだ

から、言い分があるなら、州政府と話し合えば良い。ここでは何も分からな

い。」

州政府が無責任な対応をしたのは、言うまでも無かった。何の権限も持たないような、下っ端役人が出て来ると、逃げ口上を繰返すばかりでした。

ある機会に、プナン族の代表が環境大臣と会うことになりました。驚いたことにこの大臣は、伐採のライセンスを持つていたのです。それが彼にとつて必要なのは、サラワク州きつての最大の企業のおーナーだったからです。

「どうして、お前たちは道路封鎖をするのだ。森林伐採を止めようとするのか。どうだ、金が欲しいのか。いくら渡せば良いのだ。」

環境大臣のこの傲慢な言葉に、プナン族の代表は怒りを抑えながら、「金が目的で来たと思うのか。土地を返しなさい。我々にとって、土地は生活そのものだ。金を渡すという、その金の

出所は、我々プナン族の土地から奪い取ったものではないか。」

サラワク州でも指折りの富豪である環境大臣と、プナン族とのやりとりは、いくら根気良く繰り返しても、このようなカテゴリーを一步も出るものではないありませんでした。

私とプナンの人々とは、長い年月をともに暮らしてきた訳ですが、彼等は素朴で簡素な人ばかりでした。

大勢の人々の生活の信条は、すべての物はすべての者が共有できる、しなければいけないというものでした。狩に出て猪でも射止めたとします。長い道のりを幾つもの山を越えて、獲物を持ち帰って部落にたどり着きました。

私はそのことを想い出すたびに、新しい感動を覚えるのです。射止めた人も、担いで辛い目をした人も、部落で待ちわびていた人も、老人も幼い子どももの区別も有りません。皆が食欲次第と、獲物の分量次第という分配をして、

なごやかな食事を楽しむのです。

幼い子どもが吹き矢を使って、小さな鳥を落しました。火を使って調理を終えました。一人ぶんの分け前は、赤ん坊の指ほども無かったけれど、焼鳥を子どもらは楽しそうに、あつという間に平らげました。

プナンの人たちは本当に人間らしい。子どもも大人も教育を受けたための醜さなどかけらもありません。プナンの人の心は、本当に美しい。自己中心的なところが無い。

文明人社会に生きる我々と比較してみると、日本やヨーロッパの人間生き方が、悲しくさえなっています。

私たちは、この美しい心を持ったプナンの人々を守らなければならないと思います。私たちの身の廻りには、物が溢れているけれども、精神的には非常に貧しくなっています。

プナンの人々の生活のすべてを話すには、たいへん残念ですが、今夜私

に与えて下さった時間は残り少なくなってしまう。でもこれだけは、忘れないで心に留めておいてほしいのです。

プナンの人々は、すぐれた文化を持っていきます。この価値ある文化は、絶滅の危機に晒されています。勿論それは森林の伐採がその唯一の理由なので

す。このままブルドーザーが、プナン族の土地に入り続けると、今年中にプナン族は滅びてしまいます。今すぐにでも、行動をとる必要にせまられています。

このようなサラワクの現状を聞いて下さった皆さんは、どうお考えでしょうか。気の毒だとか、単純に可哀想だとか思われるだけでしょいか。

果たしてあなた方の周囲は、どうなのでしょいか。もう一度見直して、考えてみて下さい。

木製の家具類をはじめとして、合板を使ったもの、使い捨ての箸などのことごとくが熱帯林から運ばれてきたものかどうかを、チェックしてみてください。

日本人の家庭に溢れている、これらの製品が、熱帯林破壊の大きな原因に



森林與地のトラクターの通路は
木を傷め、
土壌の浸食を引き起こす！

なっているのではないのでしょうか。

サラワクの州政府を始めとする、現地の側にばかり、責任を押し付ける訳にはいかないのです。罪は私たちにも必ずあります。

この現実を考えると、私たちの考えは決まると思いますが。先ず熱帯林の製品を買わない、使わないことも一つの手段です。

ブナン族の救援は、それだけでは充分でなく、日本の企業や、政治への関わりが重要な課題になってきます。今夜ここに集まって下さった方々に、知ってもらいたい数字があります。

サラワクから輸出される木材の六〇%から七〇%が、日本へ送られてくるという事実です。この責任を、本当の意味で理解してほしいのです。

熱帯林の木材でつくられた製品を、ポイコットする習慣を身につけて下さい。さらに積極的に、日本政府へも企業へも、働きかけることが必要だと思

います。

木材の輸入に関わっている日本の企業は、丸紅、三菱商事、住友林業、住友商事、ニチメンなどだと、私は聞いています。

皆さんの抗議の声が、これらの企業に向けられるよう、そして企業に人道主義を守るよう働きかけて下さい。

日本人にとってサラワク木材の輸入は、不可欠なものでしょうか。サラワク材は安価なので、使い捨ての製品が多いのですから……。

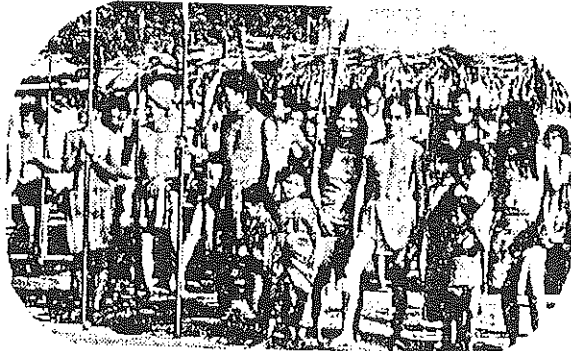
無法な伐採の情報を持っている日本のグループと協力して下さって、行動を続けて下さい。近い日にサラワクの地から、ブルドーザーが一台も残らず撤退して、ゆたかな熱帯林が守られるよう、日本の皆さんのご協力を望んでやみません。

どうもありがとう、ございました。

〔文責* はた やすのり〕



女性や子どもも参加して伐採道路を封鎖するブナン族＝マレーシア・サラワク州



プナン人の受難——サラワク調査報告(2)

「森が全てだ！」

西岡 良夫

五月四日、マルデイの町からトゥット川を遡って、陽が沈んだロング・イマン村に着く。九名の日本人が突然やって来たので、プナン人は「何事か」と思ったらしく、大人も子どももロングハウスからやって来る。僕達が環境保護団体、弁護士、医師で、マルデイの《地球の友》の紹介で森林伐採調査に来たことが判ったので、彼等は安心したようだ。

トゥット川から雨が降っていたが、ついに大粒の雨が落ちてきた。僕達は、プナン人の粗末なトタン屋根のロングハウスにとめてもらうことになった。食事の後、この村の若きリーダー・モスさんは、薄明りのロウソクの部屋で僕達に語りはじめた。

「我々の祖先は、森から森へと移動しながら暮らしていた。一九六〇年後半、サラワク州政府は突然、病院も学校も作るから定住せよ、と言ってきた。強制的に定住させられると、今度は森を壊し始めた。食べものになる獣、鳥、サゴヤシなどどんどんなくなつた。だから、我々は森の破壊を止めるために、一九八六年より十回もブロードをした。森は我々の住み家だつたからだ。」

モスさんの話を聞きおえて、僕達は目的地のロング・バンガンへ行くかどうか話し合つた。プナン人達は「二〇km、約四時間」というもの、僕達の足ではたぶん倍くらいの時間を要する上、原生林の途中で雨になればてこずるからだ。しかし、「行こう」と決める。

次ぎの日、林弁護士など三名を残し、ロング・バンガンへと発つ。村を外れて三〇分のところで、丸木橋を渡るはめになる。径はそこから獣道でないが、腰までの草に被われている。

森の中に入ってしばらくすると、モスさんは急に立ち止まる。「これは頭痛にきく草だ。あそこにあるのは腹痛に効く薬草だ。しかし、森は壊され、どんどん薬草が減つてきた」と。

ロング・イマンから二時間ほどで突然、伐採道路と出会つた。ここは昨年、プナン人がブロードした所だ。僕は「ビデオであなたの顔を見た」と言うと、モスさんはにやりと微笑む。彼はしばらくして、僕達にまゝ歩いて歩くように指示した。政府や軍の監視が今も厳しいのらしい。

伐採道路のあちこちに倒された樹が置かれている。ある所ではブルドーザーが樹を薙ぎ倒して、地面はめくれている。突然、車の音がして、すぐにトラックが過ぎていく。「見つかった」

と、モスさんが言う。

遠くからチェンソーの音が響く、暑くてしんどい伐採路を離れて、原生林の中でやつと一息をいれる。幾つも小さい川を渡ってきたので、みんなのGパンなどは膝まで濡れている。でも、この冷たさは伐採道路の暑さよりどれほど気持ち良いのだろうか。周りをみると、刀で切れば中から水がはとぼしる樹や、傷口を癒す薬草が生えていた。原生林の徑を歩きだしてからしばらくすると、かゆくなる。ヒルだ。皆んなやられている。八時間歩いて疲れたから、泥水の沢も平気だ。幾つもの丸木橋を渡る。一步パラソスを崩すと川に落ちるので、神経を減らす。

もう十時間ほど歩いたろうか。プナン人は元気なのに、文明社会から来た僕達は何と脆弱なことか。特にJ A T A Nの黒田氏、記者のKさんは疲労困憊だ。十一時間でやつと、ロング・バングンの村に辿り着く。

モスさんは、プナン人協会会長のジ

「ウインさん宅に渡達をとめるようにはからった。ところがジューインさんは、「泊めれない！ 州政府の役人が今夕方に来たのだ。我々は監視されている！」

ジューインさんの計いによって、僕達は小さな小屋に寝ることになった。バーナーで粗末な飯を炊き、ひそひそ話で夜をふかすしかない。「これではプナン人と話合っても出来ないなあ」と、林医師もため息をもらす。

夜が明けける前に、モスさんに起こされる。「早く荷物をまとめて、裏山の我々の小屋に行ったほうが安全だ。我々も監視されているし、あな方もみつかれば大変なことになる。」

竹か簾で作られた屋根の小さな粗末な小屋。これがもともとプナン人が寝る小屋だった。ちやうど朝方なので、皆んなは蚊に噛まれて、カトリ線香をたく。ロング・バングンの村人が食事を持ってきてくれて、やつと役人が帰ったと判った。

昼からになって、プナン人の健康調査を林医師が始める。僕達は狩猟につれていつてもらったり、水浴びをする。

午後四時前、今度は木材会社の人間がやってきた。再度、僕達やモスさんは急いで、藪の中や小屋に隠れる。小屋に潜んで「何ちゆうところや。」と、小声で僕は言う。J V Cの岩崎さんは「ひどい弾圧やねえ。」

ジューインさんはさつき言っていた。「警察はプナン人協会が何をするのか、と尋問にやって来ている。私は監視されて、この村から出られないのだ。一九八〇年に、この村に強制定住させられた。今は焼畑で米、キャンサバ、などを作っているが、伐採道路の建設で土地は荒れてきて、作物が思うように取れない。狩猟も一週間かけねばならない。残された森は一つだけだ。我々は森が全てだった！ 直ちに木材輸入を止めて欲しい！」と、顔をひきつらせて「……」。

古紙やそのほかのこと

井下祥子

子供のころ読んだ話だ。

「昔むかし、近頃のモンは紙を大切に
はん。と心を痛めたエライ人が、皆をつ
れて紙づくりの見学にい。た。真冬の水
に凍えながらの作業に驚い。た。人達は
二度と紙を粗末にしませんでし。た。」

「物を大切にす。る。て、想像力の問題
じゃないだろうか。今、目の前にある
物。は。どこで生まれ、誰がどんな風
に加エし。たのか。そして、これからゴミ
になるのか、再生されるのか。それをあ
りありと想像か。ける力をキ。ア。エ。れ。ば、
世界とつながることが出来る。紙。帯。林。が
アイ。リ。ピ。ン。の。バ。オ。ナ。が。よ。そ。ご。と。で。な。く
なる。」

そこら中にあふれる、ピッカピカの製
品や食べ物がおどろきの想像力を弱く
している。

資源は有限だ、という単純なこと。日

をフブッて「使いますてはステキだ」と、
作る側・売る側は言いだした。便利だか
ら、と賢う側もの。た。資源を奪われて
困る人々のことも、ごみの後始末も忘れ
て。使いますては、空気のようにはアタリ
マエ。と。い。う。世。代。も。大。人。に。な。っ。た。

「日本では、古紙回収率は高い」と業界
の人は鼻高。た。が。さ。ら。に。率。を。あ。げ。る。そ。う
だ。が、一方では過剰包装花。が。か。り。
「ネビヤ」や「スコッティ」とい。た。
「100%パーセントパルプ」のティッシュが
幅をきか。せ。て。い。る。捨。て。る。た。め。の。紙。
。一。回。き。り。使。っ。て。捨。て。る。紙。が。こ。ん。な。に
多いのは日本だけだ。という。

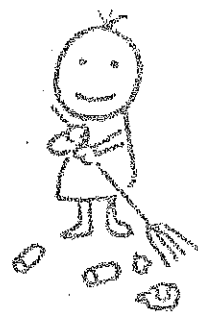
せめて、「再生紙」「エコマーク製品」
を使。う。と。こ。ろ。か。ら、始。め。よう。生。協。な。ど
では、古紙再生のトレットペーパーや
ティッシュに力を入れている。

不要な包装は断らう。紙袋、ふろし

き、ビニール袋を、バックにしろはせて
おこ。う。ク。ラ。ス。入。り。で。な。い、バラ売りの
商品を買おう。

新聞紙、広告チラシ、化粧箱などは、
キッチンと分けよう。新聞と広告とは、一掃
にすれば色々な製品に生まれ変わる。牛乳
パックは別ルートをさがす。

不要な家具は買わない。私の友人には、
粗大ごみにおされた家具を活用している人
も何人かいる。そこまで想像できなくて
も、不要な「バザー」はよくあるし、リサイ
クル専門誌「くらしの本」(日本リサイ
クル市民の会)などを活用する手もある。



サウザン総会報告

● 7月19日(土) 7:00PM
● 大阪府立労働会館(天満橋)

● (基調報告) 『熱帯材の伐採をどう?』 猪俣栄一氏

まず、今回の総会に徳島より乗版して下さった猪俣栄一氏にこの場をかりて感謝いたします。にもかわらず総会というにはあまりにも少ない参加者(8名)にもかかわらず、私たちの力不足を感じるばかりでした。

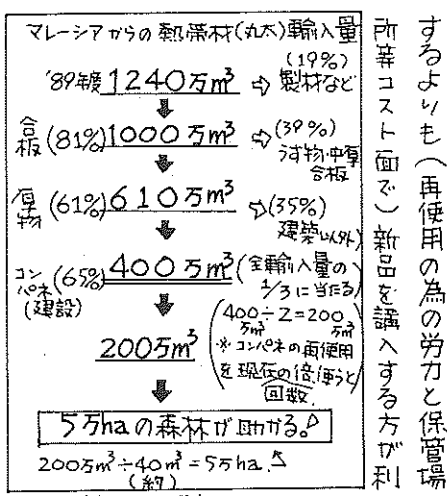
さて、総会は猪俣氏の基調報告から始まりました。この報告は大変わりやすいく、又、今後の運動の方向を示す上で意義深いものでした。

● コンパネになる熱帯材は輸入量の1/3を締める。今や、熱帯材伐採の問題は合板問題と等しくも温言ではない。

昨年(89)マレーシアからの熱帯材(丸太)輸入は1240万³このうち81%、1000万³が合板として加工された。(合板の種類:薄物24%厚く中厚36%~8%、厚物10%~がある)その1000万³のうち、61%、610万³が厚物にな

り、さらに610万³のうち、65%にあたる400万³が建設用コンクリートパネル(以下コンパネ)として加工されています。

なんと、この400万³という数は全輸入量の約1/3までを締める結果になっています。現在、建設企業のコンパネの使用回数は1~2回が普通であるといわれています。これは、コンパネを何度も再使用するよりも(再使用の為の労力と保管場所等コスト面を)新品を購入する方が利



潤を得られるという理由からです。

サラワク州あたりの森では、現在1ha当り36万³~38万³の熱帯材しかとれないそうです。コンパネ再使用回数を今の2回から4回にすることで400万³ ↓ 200万³にすることが出来、これを森の広さに計算すると、5万haの森を破壊から救うことが出来るのです。又、再使用可能なコンパネ(タフコンロフ)という表面を樹脂加工してある、価格は30%up)もあるのです。

現実としてすぐに熱帯材の輸入を止められない限り、その需要をへらし森の伐採をおくらせることは重要でず。

需要をへらせば必ず輸入量が少なくなることはこれまでの数字が物語、ています。以上をふまえて、まず大阪府、

大阪市に対し、公共施設工事に限り、熱帯材使用をやめるが、コンパネの再使用を4回以上行なう等を申し入れて行く。建設企業にも同様の運動を行なって、ては等の案が出された。報告のあとウータン活動方針、今後の予定が確認され、最後に会計報告と合資植上げが承認されて、総会の幕をこじました。(永田)

ウータン総会・活動方針（九〇年度）

△△開闢質問状

住友林業、丸紅、ニチメン等十社へ

質問（前文は略）

去る三月、サラワクのウマバワン村より、ジョク・イボンさんが来日した時に訴えられた。

「まだ伐採は行われ、森の破壊が続いている。日本の人々は、サラワクからの木材輸入を止めてほしい。」

この五月末、サラワクを訪れた時に、ジョクさんやマレーシア地球の友のハリソン・ガウさんは言われた。

「このままで伐採され続けると、原生林はあと五、六年でなくなる」と。

またガウさんは「伐採によって生活を破壊されて、プロケードを七〇年後半より約一〇〇回以上行った。逮捕者は、五〇〇名ほどにのぼっている。誰のための森か。サラワク材の大半を輸入する日本の責任は、特に重大だ。今後、あなたがたは私達の隣人になり得るのですか」と言い加える。

サラワク、サバの乱伐、フィリピンでは希山になっているのを考えると、

今すぐにも、熱帯材輸入、伐採中止の行動が求められているのではないか。

また、大量消費の社会、暮らしをかえていく必要がある。特にウータンの存在と熱帯林伐採問題を広く知らせることが、とりわけ必要だ。そこで私達は

- 1) 通信の定期化
- 2) オリジナル・ビデオやパンフ発行
- 3) 事務会議の固定——第二、四火曜
- 4) ビラなど街頭宣伝
- 5) 作業の分担化、通信発行責任者の持ち回り化
- 6) 木材会社への交渉、公開質問
- 7) 他団体へ伐採反対のPR
- 8) コンパネ使用調査と大手ゼネコンや自治体に熱帯材使用中止の申入れ
- 9) 年一、二回の伐採中止・人権弾圧反対のイベント
- 10) 月例会を取り組む

ことを五月一九日の総会で決めた。

〔文責：西岡〕

一) 今後、サラワク州からの木材輸入計画について、中止したり、縮小、変更する予定がありますか。

二) サラワクの先住民は森を壊され、やむなくプロケードして逮捕されたり、弾圧を受けていますが、貴社はどのようにお考えですか。

三) 貴社は熱帯林再生計画を持っておられますか。もっているなら、具体的計画をしめしていただきたい。また、多種多様な熱帯林の再生は可能と考えますか。その理由は何ですか。

四) 貴社は、サラワクにおける熱帯林破壊を防ぐ計画を考えていますか。

五) サラワクからの熱帯材輸入が困難になった場合の対策は、どのようにしていますか。

六) 社内で紙の節約、リサイクル運動をどのようにしていますか。

六月末日までにご回答下さい。

ウータンからのお知らせ

熱帯林と先住民のピンチ

活動に御参加を!

6月27日(木) 月例会議 午後7時

7月10日(火) 月例会議 午後7時

オリジナルパンフの作成・コ
ンクリートパネルや古紙の再生
に向けての要求行動、伐採企業
への抗議行動等について

自然連合事務所

06(377)1561

地下鉄谷町線中崎町下車から

尚、公開質問状に対して無回答の
企業に対する行動や、伐採企業・
輸入業者への直接交渉を、7月中
に企画しています。

追々 大台が原へ原生林

を訪ねるツアー計画

編集後記

たった一本の木を運び出すのに、ブル
ドーザでそこら辺の木々をなぎ倒して
道を作ってゆくのです。あっという間に
赤土がむき出しに。……

サラワフの調査報告のビデオは、とて
もショッキングな光景を映しています。

タグホルトにひかれて川を下る木材は
途絶えることもないうやうです。伐採地の毛
ウサレた山肌を思うと痛ましい限りです。
一人でも多くの人が、私達と共に活動
に参加して下さるのを待っています。

(奥村)

ウータンの間い合わせ先

第二・四火曜日は、連合事務所にて。

その他の日は次の所にお越しします。

川本克則。06(773)0952

西岡良夫。0722(55)0505

(両人ともPM9時2は時まで)



会費値上げ

よろしく
お願いします。

先々月の会報から話題(2)になつて来た
会費の件ですが、今年から、事務所の家
賃も収め、その他の経費もかなりかか
てますので、本年度より2000円にす
るものが総会で決まりました。

これから、ますます暑くなります。

みなさまも体に気をつけて下さい。

(会計、川本より)

びっくり。はたさんのテラプ起こし、
ブルーノ講演後六時間で原稿に
みんな、やる気だして頑張ろう

(西岡) これは毒ダネ

